

## JNSA「セキュリティ・スタジアムセミナー第二弾」 「情報漏洩の傾向と対策」開催される

セキュリティ・スタジアム企画運営 WG  
根津 研介

2004年5月28日(金)、人事労務会館(品川区大崎)にて、「情報漏洩の傾向と対策」と題したセミナーが開催されました。盛夏を思わせるような晴天に恵まれ、81名の方が参加される中、活況なセミナーとなりました。

### 情報漏洩のケーススタディ

まずは、2004年に入って急に頻発しはじめた情報漏洩の様々なケースについて、分類や傾向、影響、原因などについて、IPA 非常勤研究員/JNSA 研究員の園田道夫氏が講演されました。特に、2002年、2003年と年間20件程度であった企業の情報漏洩事例が、2004年に入ってただか半年程度の間、既に倍の40件以上も出ている状況に危機感を訴えられていました。

また、ほとんどの事例において、流出経路不明のものか内部犯行によるものが大多数であり、「本来の手順の確率と遵守、それを支える技術的なサポート」が最も重要であることを強調されていました。

私自身、春先の信販系の情報漏洩の被害(不正請求ハガキや、週に2,3回勧誘系の電話が会社に急に来るようになった)と思しき状況になったことを考えると、とても人ごととは思えず、「明日は自分も被害者」というぐらいの気構えで、事に当たる必要があることを痛感しました。

### ログは何でも知っている

続いて、伊原秀明氏がコンピュータが保存する様々なログの可能性と限界について講演されました。通常、記録されるログとコンピュータフォレンジックでそれぞれ追跡できる範囲、限界から、人の操作(キーボード、マウス、画面)の記録(ログ)の重要性と取り方についての解説、プライバシーへの配慮、削除されてしまったファイルの追跡や復活方法などについて解説されていました。

また、これらの電子的な記録について、訴訟等の際に証拠となり得るための方法についても触れられていました。

### 会社は何をすればいいのか?

続いてのプログラムでは、園田氏が、2005年に一般企業でも施行される個人情報保護法を念頭に置き、企業のIT部門のマネージャーが、経営陣や、現場に対して「どのようなアプローチ」で「何を行っていく必要がある」のかについて講演されました。具体的な対策だけでなく、セキュリティ投資の費用対効果、という項目についても少しだけ述べられていました。

IT予算については、例えば売上の10%など、ごく大雑把な目安が語られているだけでしたが、例えば各対策の費用対効果や、全体への波及効果など、もっと突っ込んだ話をしていくべき時期にきている、と感じました。

### パネルディスカッション

最後に、園田氏、伊原氏に加え、弁護士の尾崎孝良氏を迎えてパネルディスカッションが行われました。特に、尾崎氏からは、企業が社員の社内でのコンピュータを使った行動の記録(ログ)を取ることでプライバシー権との関係の論拠になる判例の紹介など、情報漏洩に関連する判例や論拠について、非常に興味深いお話がありました。

### 次回はセキュリティスタジアム

セミナー参加者のみなさんのご協力もあり、今回のセキュリティスタジアムWGの活動は、本番である「セキュリティスタジアム」の開催となります。開催日程や参加要項等はまだ未決ですが、11月頃に開催を予定していますので、ごぞってご参加ください。詳細は、決定次第、事務局よりお知らせさせていただきます。